

授業科目名 <英訳>	東洋史 I Oriental History I		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩 人文科学研究所 准教授 村上 衛 人文科学研究所 准教授 古松 崇志		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態 講義
開講年度・ 開講期	2018・前期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生 全学向
[授業の概要・目的]						
<p>近年、緊張していた日中関係はやや好転したものの、依然として対立は解消せず、日中両国民の相手国に対するイメージも悪化したままである。一方で、中国経済の発展にともなって日本企業にとって中国市場の重要性は増しているうえ、日本への中国人観光客も激増しており、日中が切っても切れない関係にあることは間違いない。本講義は、このような現状を意識しつつ、長期的な視野から10世紀から20世紀後半までの日中関係を政治・社会・経済・文化の多様な側面から検討する。そして日中間の交流・対立や相違点・類似点についての歴史的理解を深めるようにしたい。</p>						
[到達目標]						
<p>10世紀から20世紀後半までの日中関係について、政治・社会・経済・文化面を中心に基礎的な知識を習得し、日中間の交流・対立や日本と中国の相違点・類似点について歴史的に理解できるようになる。</p>						
[授業計画と内容]						
<p>第1回 ガイダンス 第2回 海商と巡礼僧(古松) 第3回 モンゴルの日本襲来(古松) 第4回 13・14世紀の大交流(古松) 第5回 元明交替と室町文化(古松) 第6回 日中の差違 明末～清代中期(村上) 第7回 明治維新と洋務運動(村上) 第8回 在華紡と中国紡(村上) 第9回 近代日中製糸業の展開(村上) 第10回 日中対立と中国経済(村上) 第11回 蒋介石の日本観(石川) 第12回 中国共産党の革命運動と日本との関係(石川) 第13回 日中戦争と戦後処理(石川) 第14回 日中国交回復への道のり(石川) 第15回 期末試験/学習到達度の評価 第16回 フィードバック</p>						
[履修要件]						
特になし						
[成績評価の方法・観点及び達成度]						
定期試験(筆記)						
----- 東洋史 I (2)へ続く -----						

東洋史 I (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

荒野泰典・石井正敏・村井章介(編) 『日本の対外関係 3 通交・通商圏の拡大』(吉川弘文館)
ISBN:978-4-64-201703-9

荒野泰典・石井正敏・村井章介(編) 『日本の対外関係 4 倭寇と「日本国王」』(吉川弘文館)
ISBN:978-4-64-201704-6

吉澤誠一郎 『シリーズ中国近現代史 清朝と近代世界』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431249-9

川島真 『シリーズ中国近現代史 近代国家への模索』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431250-5

石川禎浩 『シリーズ中国近現代史 革命とナショナリズム』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431251-2

久保亨 『シリーズ中国近現代史 社会主義への挑戦』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431252-9

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書などを読み、中国近世・近代史についての基本的知識を身につけてから講義に臨むこと。

[その他(オフィスアワー等)]